

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-161	12-317	慶應義塾大学
題名 (原題/訳)		
Effects of alcohol (BAC 0.5%) and ecstasy (MDMA 100 mg) on simulated driving performance and traffic safety. シミュレーションされた運転の遂行能力と交通安全に対するアルコール (BAC 0.5%) とエクスタシー (MDMA 100mg) の影響		
執筆者		
Veldstra JL, Brookhuis KA, de Waard D, Molmans BH, et al		
掲載誌		
Psychopharmacology (Berl). 2012 Aug;222(3):377-90. doi:		
キーワード		
運転能力、 アルコール、 MDMA		
要 旨		
目的： 数多くの致命的な交通事故でドライバーの血液中にエクスタシーが検出されたことが報告された。しかし、エクスタシーはアルコールと一緒に使われることがしばしばあるが、エクスタシーとアルコールが同時に投与されての急性効果をみる研究は比較的少ない。		
方法： 本研究は、0.3%、0.5%、0.8%のアルコール下に運転することと比較して、エクスタシー単独またはエクスタシーとアルコールの同時投与がドライバーの能力に障害をもたらす程度を確立するようデザインした。さらに、主観的な運動能力も評価した。		
結果： アルコールとエクスタシーは、主に側方のおよび速度制御のようなオートメーション化した運転能力に影響した。しかし、複雑な運転能力に対するMDMAの効果は小さいか、なしであった。全体として、特に参加者が3,4-メチレンジオキシ-メタンフェタミン (MDMA) とアルコールの処置を受けたとき、異なる運転能力の測定間の相違は大きかった。さらに、同等試験では、併用が運転能力の障害をきたすのは、全てのドライバーではなく、何人かのドライバーに限られる可能性を示した。参加者は両方の研究で正常の人より自分自身の成績をわずかに悪いと評価した。運転することは実際のところ深刻に悪化していたので、本研究の結果はそれらの状態の偽陽性の評価であった。		
結論： 主観的な認知と客観的なパフォーマンス低下の解離は、それが運転することが安全か否かのドライバーの判断に影響を及ぼす可能性があるため、交通安全のための重要な概念である。例えば、MDMAに起因する機敏な感情がアルコールのような他の薬によりそこなわれている能力を低下させるので、酔った個人は運転することに決めるかもしれない。そして、それによって交通安全のために潜在的に深刻なリスクをつくることになる。		